



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

「とうきょうすくわくプログラム」 ってなあに?!

子供たちがわくわくしながら遊び、学び、豊かな心を探究活動を通して育む「とうきょうすくわくプログラム」。この取り組みを東京都と連携して進めている東京大学大学院教育学研究科附属発達実践政策学センター（CEEDP）の浅井幸子センター長と野澤祥子特任教授に、なぜ今探究活動をするのか、また実践でのポイントも伺いました。

なぜ今すくわくプログラムで探究活動をするのか

探究活動を行うとき心がけてほしいポイント



探究活動の流れ

テーマは子供の興味・関心を深められそうなものを設定します。子供たちは、子供同士や保育者とのかわりの中で遊び、試し、考えながら「探究」を重ねていきます。



詳しくはこちら「すくわくポータル」



浅井先生と野澤先生の動画はこちら



浅井幸子先生

東京大学大学院教育学研究科附属発達実践政策学センター長・教員開発コース教授

野澤祥子先生

東京大学大学院教育学研究科附属発達実践政策学センター特任教授

野澤祥子先生 自尊心などの自己にかかわる心の力や、協同性などの社会性にかかわる心の力（非認知能力）を特に乳幼児期に育んでいくことが、子供の生涯にわたる心身の健康やウェルビーイングにつながるということが、さまざまな研究で明らかになっていきます。そういった心の力を、探究活動を通して育もうとしているのがすくわくプログラムです。

浅井幸子先生 もうひとつの側面としては、「子供の声を聴く」ということが改めて着目されてきていることです。幼い子供でも自分なりの世界の見方を持っています。そうした子供観の転換と、非認知能力への着目から探究活動へつながりました。

浅井先生 まず子供たちが何に関心を持ち、何が好きかをよく見ることが大事です。探究のテーマによって環境設定は変わりますが、大規模なイベントである必要はなく、シンプルな設定で始めていただければいいと思います。

野澤先生 白い紙に拾った植物を並べるだけでも大丈夫。普段ならぞんざいに扱うものも、よく観察するようになります。

浅井先生 「葉っぱを拾いに行きましょう」とではなく「本当に気に入ったものを1枚持って帰ろうね」と声かけをすると、子供と葉っぱの関係が変わってきます。先生の「問いかけ」と「提案」も大事ですが、難しく考え過ぎず、子供に何とど

う出会ってほしいのかを考えてください。子供の声を聴くと、次にこんな環境を設定すると違う側面に出会えるかもしれないと、サイクルになって深まっています。

野澤先生 対象との出会いのときに、子供を手伝ってあげたくなりますが、待つことも必要です。また、そのときの反応や言葉を記録して振り返ることも大切です。子供の表現を拾っていくことで、子供の発見や気持ちをより精緻にとらえられたりします。探究活動では、子供たちに大胆に聞いてみるのもおもしろいと思います。「光って何だろう」といった問いかけにも、子供たちはさまざまな考えを話してくれると思います。

探究活動の実践紹介!

実際にどんな探究活動が行われているのか、保育者の方々からお話を伺いました。現場の声と子供たちの様子をお届けします。

活動の振り返り1

「穴」の写真プロジェクターでスクリーンに映して、クイズ形式でみんなと共有。なんのための「穴」なのか、想像し仲間分けしました。特に、普段おとなしい子供も活発に意見していたのが感動的でした。(田中なな子教頭)

活動の振り返り2

子供たちがどんな方向に進んでもいいように準備するだけでなく、子供の気持ちに寄り添い、一緒に考えながら実践していく探究活動は、私にとっても勉強になりました。(中川和音先生)

探究活動は振り返りながら何度も行い、深めていきます。

活動の振り返り1

サーキュレーター風の当たり方によって紙飛行機の飛び方がどう変わるのか、くり返し試していました。また、「もっと大きな風がほしい」という声があがりました。(金子茜先生)

活動の振り返り2

飛んで行ったはずの風船がサーキュレーターの裏側にくっつく様子など、子供たちが不思議に感じた事を「なんでだろう?」と、一緒に考えることで、探究がより深まりました。(君島祐子副園長)

探究活動は振り返りながら何度も行い、深めていきます。

彰栄幼稚園 (文京区) 5歳児クラス

テーマ: 「穴」

子供たちから読んでほしいとよくリクエストがあった絵本『はなのあのはなし』をきっかけに、身近にいくつも存在する穴であれば、「この穴はなんだろう?」と探究を深められるのではないかと考え、「穴」をテーマにしました。

探究活動1

穴を探してみよう!

子供たちを3つのグループに分けて、園内を探索。見つけた穴の写真を撮り、その写真を見ながら「どうしてあいた穴なの?」「なんのためにあいているの?」と話し合い、「穴には理由がある!」という発見につながりました。

探究活動2

ポスターを作ろう

前回の振り返りで仲間分け(分類)した「穴」の写真を模造紙に貼り、どこにある穴なのか、何のための穴なのかを、幼稚園のみんなに伝えるポスターを作りました。「自分たちで穴を作りたい!」という声も聞こえ始めました。

品川保育園 (品川区) 4歳児クラス

テーマ: 「自然を感じる～風～」

紙飛行機が大好きな子供たち。紙飛行機を飛ばすとき、「扇風機をつけて!」という子供たちの姿は、まるで風が見えているかのようでした。風を感じながら紙飛行機を飛ばす様子から、テーマを「自然を感じる～風～」にしました。

探究活動1

風を感じてみよう

サーキュレーターにテープをつけて風の流れを見てみたり、吹き出し口に紙飛行機を置いて飛ばしたりしました。また、用意したさまざまな紙を使って、折り方を工夫しながら、友達と飛ぶ距離を競う活動も行いました。

探究活動2

いろいろなものを飛ばしてみよう

「もっと大きな風」を子供たちに感じてもらえるように、大型サーキュレーターを小学校から借りました。ビニール袋や京花紙、風船などを用意すると、ビニール袋に風を集めたり、風船を飛ばしたり、いろいろな方法で風を感じる姿が見られました。